NIE実践報告

1．タイトル：下郡こ線橋建設工事の新聞記事から，行政の働きについて考える意識を育てる

2．学校名

大分市立下郡小学校

3．実践者名（代表者名）

本松　健一

4．学年

６年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会　３２名

6．単元（本時の学習課題）名

全国最大級の難工事で建設される下郡こ線橋

7．目標(狙い)

下郡こ線橋が全国最大級の難工事をしてまで建設されるわけを，〈下郡の発展〉〈周辺地域の利便性〉〈市や県全体の発展〉からとらえ，地域の開発は市や県が望ましい施策を決定し，実行していることを考えるとともに，わたしたちの生活との関連について考えることができる。

8．評価の視点

地域で実際に行われている下郡こ線橋の建設について，課題を持ち意欲的に調べ，自分の考えを持っての話し合い活動を通して，住民や行政等様々な立場に立ち自己の考えを深めることができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

わたしたちの願いと政治のはたらき（１１時間）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

〈出合う〉（５時間）
・下郡こ線橋建設工事の新聞記事から，その工事のすごさについて考えよう【本時】
・現在の工事現場を見学に行こう
・橋ができると下郡の人が便利になるか詳しく調べよう
〈とらえる〉（３時間）
・下郡地区にとっては心配なこともあるのに，大工事が行われるのはなぜだろう
〈つくる〉（１時間）
・下郡こ線橋の建設は，下郡地区や周辺地域の人々のためなのか
〈いかす〉（２時間）
・下郡地区と大分市にとっての，理想の街プランを考えよう

11．児童・生徒の反応、感想・意見

下郡こ線橋建設工事の新聞記事から，そのスケールの大きい工事のすごさやその工事を思ったより少ない人数でしていることへの驚きなどを感じ，実際に見てみたいという強い意欲を持つことができた。

12．成果と課題

・日本でも屈指の難工事が自分たちの住んでいる下郡地区で行われている新聞記事から，子どもたちは疑問や驚きを持ち，以後興味を持って調べ学習を行うことができた。
・小学校の社会科において，校区に関する新聞記事を地域教材との出合いや参考資料として活用することは，子どもたちの興味・関心を高め，実感的に受け止めることができることから，有効であると感じた。
・新聞記事から教材化するのは大変意義深いが、関連する記事が連続していないことなどから，考えを深める資料として利用するには難しさもある。